



国際交流活動 in まつうら

今月は3月に開催した English キャンプの様子をお知らせします！

5年生が輝いた English キャンプ

すべて英語で生活を体験することを目的とした「第2回松浦市国際親善協会 English キャンプ」に市内の小学校5年生6人が参加しました。

今回のテーマは、集中した英語のレッスンを通して、「自分の将来の夢について話そう」でした。

1日目に元中学校英語教師の松延義和先生がフォニックスのレッスンをし、L, R, TH などの英語のつづりと発音の関係を勉強しました。夕食は英語を使って、自分のオリジナルピザを作って食べました。活動中参加者から「自分でします」は英語で何と言いますか？という質問も出て、「by myself」と教えてもらおうと、その後、何度もこの英語を使う様子が見られました。キャンプのリーダー（写真2列目左から右へ）フィオナ先生、キーラ先生、ナディヤ先生、マーク先生と旅館に泊まって、朝から仲良くパンケーキを焼いたり、英語の歌を歌ったりしまし

た。最後はキャンプ中に勉強した英語を保護者の前で発表しました。

参加者は皆、英語を学ぶことに熱心で、5年生と思えないくらい、コミュニケーションが上手でした。



図書館へ行こう！
～本を読みたくなる気持ちにスイッチ・オン！～

市立図書館
☎ 0956-72-4677



松浦市ホームページで「松浦市立図書館」を検索

土日、祝日開館（年末年始、臨時休館を除く）
休館日は行事カレンダーをご覧ください。



「子ども読書の日」

2000年に政官民の協力で実施された「子ども読書年」。この流れを受けて、2001年には「子ども読書活動推進法」が公布、施行、国と自治体には子どもの読書推進に関する施策の策定・実施の責務を有することが明記されました。その「子どもの読書活動推進法」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められました。

「こどもの読書週間」

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとるの願いから、「こどもの読書週間」は1959年に誕生しました。幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、物事を正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか。

子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こども読書週間」です。

イベント情報

- リレーおはなし会
4月7日、14日、21日、28日
11時～（おはなしのへや）
- 全国訪問おはなし隊
4月20日（土）
（生涯学習センター）
10時～キャラバンカー見学
10時40分～おはなし会
- 春の本活！（図書館）
4月27日（土）～5月6日（月）
不要になった本を必要な方にお譲りします。
- 図書館クイズ
4月27日（土）～5月6日（月）
- いつでもおはなし会
4月23日（火）～5月12日（日）
子どもを対象に、いつでも読み聞かせを行います。
- 福袋
4月27日（土）～5月6日（月）
※なくなり次第終了

お知らせ

- 4月の特設コーナーは「平成最後の・・・」
- 4月から貸出し冊数の制限がなくなります。





松浦市×梅山鉄平食堂のタッグが 福岡市天神に再び！！



◀アジフライの聖地
松浦市ブース

梅山鉄平食堂特製
松浦産アジフライ
バーガー▶



3月9日、10日の2日間、福岡市天神の福岡市役所前ふれあい広場で開催された「ラブエフエムフェスティバル2019」。ラブエフエム国際放送(株)が主催するこのイベントは福岡の若者が多く集まるイベントで、多くの若い世代に「アジフライの聖地 松浦」を認知してもらうことを目的に初出展しました。

HKT 48や真心ブラザーズ、くるり、土岐麻子などのアーティストの音楽が会場に流れる中で、今年の夏以来、行列のできる福岡の人気定食屋「梅山鉄平食堂」と再びタッグを組み、今回は『松浦産アジフライ』の他に、松浦産アジフライと松浦産野菜を使った『アジフライバーガー』を今回のイベント限定で販売。松浦市のブースは公開ラジオとDJブースに隣接したアゲアゲゾーンとして、特別な空間を演出し、当初の予想を超える多くの皆さまにお越しいただきました。

問合せ先

松浦市福岡事務所
☎ 092-406-2180
✉ matsuura.f@city.matsuura.lg.jp

わたしたちの郷土

155
巻



「水中遺跡調査検討委員会協力者会議」を
鷹島町で開催！

第4回水中遺跡調査検討委員会協力者会議が3月1日、鷹島公民館で開催されました。

この会議は、水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業として、水中遺跡保護体制の整備充実を図るため、将来的に国内外における水中遺跡の発掘調査にかかる具体的な調査の手法や技術をまとめた「水中遺跡調査のてびき」(仮称)を作成する目的で開催されました。

当日は、琉球大学の池田榮史教授をはじめ文化庁や学識経験者等25人が出席し、水中遺跡を調査するにあたっての調査方法等が議論され、翌日には、船上から鷹島海底遺跡の現地視察も行われました。

また、会議に先立ち、研究集会「水中遺跡保護行政の実態」が2月28日、福岡県大野城市心のふるさと館で開催され、自治体担当者による水中保護行政の事例報告やパネルディスカッションが行われました。

研究集会では文化財課職員も「鷹島海底遺跡の事例報告」を題目として発表を行いました。



▲協力者会議の様子



▲現地視察の様子



▲研究集会の様子